



—第14号—

## 地域・だいがく連携通信

### —神戸大学地域連携ニュース—

神戸大学地域連携推進室  
〒657-8501  
神戸市灘区六甲台町1-1  
TEL : 078-803-5427  
FAX : 078-803-5389  
E-mail : ksui-chiiki@office.kobe-u.ac.jp

## “地域と共に～10年の活動と今後の展望”

### —平成25年度神戸大学地域連携活動発表会

平成25年度神戸大学地域連携活動発表会が、平成26年1月30日（金）、瀧川記念学術交流会館大会議室で開催されました。この発表会は、地域連携事業の活動を学内外に広く発信し、意見交換を行うために、平成17年度から毎年開かれています。今年度は、神戸大学地域連携活動10年の節目の年にあたるため、「地域と共に～10年の活動と今後の展望」をテーマといたしました。

第一部は、学内各部署の地域連携活動を公募して支援する取り組みである「地域連携事業」と学生の地域貢献活動を支援するための公募事業である「学生地域アクションプラン」の事業報告です。「地域連携事業」採択事業のうち板倉史明准教授（国際文化科学研究科）と伊藤真之教授（人間発達環境学研究科）から、また「学生地域アクションプラン」採択団体のうち大船渡支援プロジェクトの水坂洋介さん、明舞団地の歴史を記録する会の石坂将一さんから、それぞれ報告がありました。

続く第二部では、地域連携推進室や各センターからの10年間の成果報告や今後の課題の提起のあと、意見交換会がおこなわれました。地域連携センターを持つ3研究科より市澤哲教授（人文学研究科）、高田哲教授（保健学研究科）、高田理教授（農学研究科）、コメンテーターにお迎えした神戸市大学連携支援室・加藤久雄室長および兵庫県教育委員会事務局・村上裕道参事兼文化財課長および地域連携推進室の奥村弘室長、佐々木和子地域連携研究員が参加しました。村上参事兼課長からは、個別の連携はそれぞれ育ってきているが、地域では、成果として総合的なものが求められるようになってきているとの指摘がありました。また、奥村室長は、10年間の成果の一つとして、篠山フィールドステーションでの取組みの例をあげ、今後、地域と大学をつなぐ「場」と「人」を、各センターと協力しながら作っていくことによって、総合性のあるスタイルを構築していきたいと述べました。

会場後方では、地域連携センターや篠山フィールドステーションの活動報告とともに、学内公募事業全11件の活動報告のポスター展示がおこなわれました。参加者の方々は、休憩時間もポスターを興味深くご覧になっていました。

今回は、学内外あわせて60名近くの参加がありました。他大学からの参加者も多く、また地元住民の方や自治体、NPO、民間企業からの参加もあり、本学の地域連携への関心が広がっている様子がうかがえました。

この発表会の様子は、本年度の「地域連携活動報告書」に収録する予定です。



# 学生による小さな直売所 “ささやま家” の開店

平成25年10月15日(火) 昼休み、農学部A棟入口(地域連携センター前)で、篠山で活動する学生団体が集まり、農産物を販売する直売所が開かれました。同年8月に、農学部学生ホールで、販売のためのヒントを得るため試食会を開くなどした努力が実ったものです。

この日出店した団体は、にしき恋(西紀地区)、はたもり(畑地区)。いずれも、実践農学入門で篠山市の各地区で農業農村を学んだ学生たち有志が、その地区を支えるため、自主的に里山整備、地域イベントの企画・参加、農業の手伝いなどをおこなっている団体です。学生達は、地域の方の助けを借りながら、自分たちも黒枝豆を育て、米づくりに取り組んできました。それらの農産物を、学内の学生や教職員の人たちに食べてもらおうということでこの企画になりました。学生たちは、ホームページによる事前予約を受付けるなど販売方法に工夫を凝らし、農産物はたちまち完売しました。21日(月)、28日(月)にも、同じ団体の直売所が開かれました。

12月16日(月)には、福住地区で活動しているユース六篠(福住地区)と実践農学入門履修生(今田地区)によって、お餅ともち米販売がおこなわれました。販売されたのは、「田んぼアート」のもち米です。「田んぼアート」とは、秋の田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を使って、田んぼに巨大な絵を作り出すプロジェクトのことです。福住地区では、2年ぶりに、ユース六篠と地元の方が力を合わせて取り組みました。

年が明け、1月20日(月)には、お餅ともち米に赤飯セット(もち米2kg+大納言小豆)が加わりました。赤飯セットには、「電子レンジで作る赤飯レシピ」が付けられました。また、お楽しみとして、石臼をひいて作る黒豆きな粉づくり体験が準備されました。

なお、同じ時間に、隣接する学生ホールで、吉田康子助教(農学研究科附属食資源教育研究センター)に来ていただき、第8回A-launch「サクラソウ咲く景色をふたたび~守るために、知ること・伝えていくことの大切さ~」が開かれました。

“ささやま家”は今後も、毎月第3月曜日に定期的に開催される予定です。



10月15日(火)  
21日(月)・28日(月)  
時間/12:30~13:00  
場所/農学部A棟入口  
(地域連携センター前)

篠山で活動する学生団体が集まり、小さな直売所を開きます。

**ささやま家**  
Student Farmer's Market  
AGRI. KANE KENYU.

篠山市内の各地域を学び、地域の方の助けを借りながら、自分たちも黒枝豆を育て、米づくりに取り組んできました。それらの農産物を、学内の学生や教職員の人たちに食べてもらおうということでこの企画になりました。学生たちは、ホームページによる事前予約を受付けるなど販売方法に工夫を凝らし、農産物はたちまち完売しました。

12月16日(月)には、福住地区で活動しているユース六篠(福住地区)と実践農学入門履修生(今田地区)によって、お餅ともち米販売がおこなわれました。販売されたのは、「田んぼアート」のもち米です。「田んぼアート」とは、秋の田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を使って、田んぼに巨大な絵を作り出すプロジェクトのことです。福住地区では、2年ぶりに、ユース六篠と地元の方が力を合わせて取り組みました。

年が明け、1月20日(月)には、お餅ともち米に赤飯セット(もち米2kg+大納言小豆)が加わりました。赤飯セットには、「電子レンジで作る赤飯レシピ」が付けられました。また、お楽しみとして、石臼をひいて作る黒豆きな粉づくり体験が準備されました。

なお、同じ時間に、隣接する学生ホールで、吉田康子助教(農学研究科附属食資源教育研究センター)に来ていただき、第8回A-launch「サクラソウ咲く景色をふたたび~守るために、知ること・伝えていくことの大切さ~」が開かれました。

“ささやま家”は今後も、毎月第3月曜日に定期的に開催される予定です。

福住まもづくり協議会2000プロジェクト×神戸大学ユース六篠

福の住む里の  
にしいるおもち  
いかがですか?

このおもちも、知事のおもてなしで有名な「田んぼアート」のもち米で作りました。「田んぼアート」は、秋の田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を使って、田んぼに巨大な絵を作り出すプロジェクトのことです。福住地区では、2年ぶりに、ユース六篠と地元の方が力を合わせて取り組みました。

水のおいしい自然豊かな環境町、篠山市福住地区  
農学部地域連携センター前「ささやま家」にて販売  
12月16日(月)お昼休み(12:20~13:10)  
300円/300g・500円/500gでご用意します。

予約注文承ります。価格100円/100g  
※おもち、100g単位で注文いただけます。  
※おもちの送料は、ご注文の金額から300円超は、送料100円/100gです。  
※おもちの送料は、ご注文の金額から300円超は、送料100円/100gです。

今月は  
おもち  
食べよう

Student Farmer's Market  
AGRI. KANE KENYU.

**ささやま家**  
篠山の恵みを生かし、小さな直売所  
篠山の犬前で、地域の方の助け  
を借りながら、学生たちが  
育てた農産物を販売します

今月の商品  
●赤飯セット 900円  
(もち米2kg+大納言小豆)  
●おもち  
●お餅  
小 (300g) 300円  
大 (500g) 500円

お楽しみ!  
●農産物センターが準備した「レインボ」は「はりまる」の試食  
●石臼での黒豆きな粉づくり体験

1月20日(月)  
12:30~13:00  
場所/農学部A棟入口(地域連携センター前)  
出店団体/ユース六篠・実践農学入門2013年履修生



## 第8回地域連携フォーラムの開催

平成26年1月25日(土)、篠山市で、第8回篠山市・神戸大学地域連携フォーラムが開かれました。JR篠山口駅近くの丹波広域農業研修センターでは、会場後方に展示コーナーが設けられ、篠山市でおこなっている農村実習や地域共同研究、学生団体活動、ESD実習報告などのポスターが展示されました。

フォーラムでは、高田理神戸大学篠山フィールドステーション長/神戸大学大学院農学研究科地域連携センター長と酒井隆明篠山市長の挨拶、鈴木武志助教(農学研究科)による特別講演「土壌と肥料—基礎と歴史—」とともに、篠山で活動している人文学研究科、保健学研究科、農学研究科の各地域連携センターやESDサブコース(発達科学部・文学部・経済学部・農学部・国際文化学部・工学部・医学部の7学部合同)の取り組み紹介がおこなわれました。

その後、全員が各ポスター前に移動し、実際に活動をおこなってきた学生たちがマイクを持って、順番に内容の説明をしていきました。参加者たちは、興味ある報告に熱心に耳を傾け、ポスターを丁寧に見ていきました。さらに、これらのポスターについては、入場時に配られた投票用紙によって、グループA(1回生・実践農学入門)、グループB(3回生以上)の各部門ごとに優秀ポスターが選出されました。選ばれた優秀ポスターは、2月初旬まで篠山市役所に展示されました。

フォーラム終了後、地域の方々の心づくしの手料理による懇親会が開催され、学生や大学関係者と地域の方々との交流が深められました。

当日は、篠山で農村実習に参加している学生をはじめ、大学関係者、行政関係者や地域の方を含めて約200名の参加がありました。



## 地域歴史遺産の可能性を考える

### —第12回歴史文化をめぐる地域連携協議会

第12回歴史文化をめぐる地域連携協議会が、平成26年2月2日(日)、神戸大学文学部B棟で開催されました。テーマは、「地域歴史遺産の可能性を考える」。地域歴史遺産がどのような広がりを持ち、それをめぐる人々の関係や、それを支える環境をどう作っていくべきかなどについて、考える場とするものです。

第1部は、新たな成果をあげている、つぎの3団体の活動をとりあげました。海部伸雄氏(淡路市文化財保護審議会副会長)による「淡路市の歴史的資料の現状と保存・活用」、國重和義氏(神戸大学近世地域史研究会会員)による「『観聞記』の研究と刊行をめぐる」、藤尾昇氏(香寺町史研究会会員)による「岩部地区の大字誌編纂について」です。

第2部は、これまでの地域連携センターを中心とした大学の取り組みについて、研究員、教員が、4つの報告をおこないました。それに対し、伊藤肇真氏(摩耶山天上寺副貫主)、竹見聖司氏(篠山市政策部企画課篠山に住もう帰ろう室室長)、遠州尋美氏(大阪経済大学地域活性化支援センター長・経済学部教授)から、コメントが寄せられました。

協議会は、例年兵庫県内を中心とした歴史文化関係者の交流を深める場になっています。参加者は、休憩時間などに、「交流コーナー」を利用し、相互の親睦を深めました。なお、当日の参加者は58機関96名でした。



### 【お知らせ】

下記3つの公募事業が、例年より早く公募を開始しています。ふるってご応募ください。

- ①平成26年度「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業助成」  
(灘区との連携事業；教員・職員・学生によるグループ対象)  
応募期間：平成26年3月17日(月)～平成26年4月15日(火)
- ②平成26年度地域連携事業(教職員対象；部局の支援が必要)  
応募期間：平成26年3月24日(月)～平成26年4月25日(金)
- ③平成26年度学生地域アクションプラン(学生対象)  
応募期間：平成26年3月24日(月)～平成26年4月25日(金)

問い合わせ先：研究推進部連携推進課産学官連携グループ TEL:078-803-5427(内線:2394)



## 第3回 災害時の要援護者に対する支援セミナーの開催 ～東北から神戸に～

平成26年2月16日(日)、ラッセホール・サンフラワー(神戸市中央区)にて、第3回 災害時の要援護者に対する支援セミナー(保健学研究科地域連携センター・都市安全研究センター主催)が開催されました。本セミナーは、障害のある人々や子どもたちの避難体制の整備や支援について、阪神・淡路大震災、東日本大震災の経験に基づいて、家族を亡くした子どものケアをも含めて新しい対応法を学ぼうとするものです。

前半では、高田哲教授(保健学研究科)から、災害と要援護者に関する問題点の整理があり、その後、福島で放射能汚染被害を受ける子どもたちの心のケアとしての「コンテナ砂場」というユニークな取り組みや、特別支援学校における防災への備えとしての「地域とのつながり」の重要性について報告がありました。また、重い障害のある方に向けて災害時に役立つ医療機器を体験しようという時間も設けられ、電気を使わない複数の吸引器(手動式、足踏式)を参加者が実際に使ってみて、その感触や長所・短所などを確かめることができました。

後半には、震災で喪失をかかえた家族のレジリエンス(自らの持つ強さ・回復力)を支えていくことや、震災遺児をコミュニティの中でサポートしていくことの大切さについて、一年間の活動をふまえた報告があり、その後、演者全員で意見交換がおこなわれました。

意見交換の最後に高田教授から、離れた地域から支援をしていくためには、このようなセミナーを続けて開催し、情報を発信していくことに意義があるというお話がありました。



## 活動報告(2013年9月～2014年2月)

9月	7日	まちTフェス2013開催(～8日、灘区:大学と連携したまちづくり助成事業)
	18日	第1回大学連携事業の検討に関する実務者会議参加(神戸市)
	20日	大学コンソーシアムひょうご神戸「第8回FD・SDセミナー」講師として参加
	24日	明石市来訪、意見交換
10月	03日	兵庫県立大学訪問、意見交換
	09日	文部科学省訪問、意見交換
	10日	兵庫県教育委員会訪問、意見交換
	15日	学生団体農産物直売所「ささやま家」開店(21日、28日)
	23日	第2回大学連携事業の検討に関する実務者会議参加(神戸市)
	24日	第7回A-launch開催(農学研究科地域連携センター)
11月	04日	「さる×はた合戦」開催(農学研究科地域連携センター、篠山市)
	08日	文部科学省シンポジウム「地域再生と地(知)の拠点としての大学への期待」に参加
	15日	文部科学省科学技術・学術政策研究所「大学の地域貢献に関する国際シンポジウム」に参加
	22日	震災復興支援・災害科学研究推進室第2回シンポジウムに参加
	28日	平成25年度第3回地域連携推進室会議開催
12月	06日	人と防災未来センター訪問、意見交換
	13日	第24回神戸市長と学長との懇談会参加(神戸学院大学)
	16日	学生団体農産物直売所「ささやま家」開店
	24日	第3回大学連携事業の検討に関する実務者会議参加(神戸市)
1月	10日	神戸新聞社来訪、意見交換
	17日	平成26年度「地(知)の拠点整備事業」公募説明会参加
	20日	第8回A-launch(農学研究科地域連携センター)開催、「ささやま家」開店
	21日	明石工業高等専門学校来訪、意見交換
	24日	神戸市来訪、意見交換
	25日	第8回篠山市・神戸大学地域連携フォーラム開催(篠山市)
	30日	平成25年度神戸大学地域連携活動発表会開催(瀧川記念学術交流会館)
2月	1日	第9回地域連携センター報告会開催(保健学研究科地域連携センター)
	2日	第12回歴史文化をめぐる地域連携協議会開催(人文学研究科地域連携センター)
	7日	明石工業高等専門学校有識者懇談会参加
	8日	神戸のまちの活性化を熱く語る会参加
	13日	平成25年度第4回地域連携推進室会議開催
	16日	第3回災害時の要援護者に対する支援セミナー開催
	18日	第4回大学連携事業の検討に関する実務者会議参加(神戸市)